

METHOD FOR LIQUID-PHASE DESULFURIZATION

Patent Number: JP2132186
Publication date: 1990-05-21
Inventor(s): TAKASE TSUNEYOSHI; others: 03
Applicant(s): TOYO C C I KK
Requested Patent: JP2132186
Application Number: JP19880283831 19881111
Priority Number(s):
IPC Classification: C10G25/00; C07B63/02; C10G29/16
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To efficiently remove sulfur compounds containing organosulfur compounds and economically obtain synthesis gases, town gases, olefins, etc., by bringing a desulfurizing agent consisting of active carbon supporting copper oxide into contact with a sulfur compound-containing liquid.

CONSTITUTION: (A) A desulfurizing agent consisting of active carbon supporting preferably about ≥ 8 wt.% copper oxide into contact with (B) a liquid, such as hydrocarbon oils, containing sulfur compounds consisting of sulfur dioxide, hydrogen sulfide, carbon disulfide, dimethyl sulfide, carbonyl sulfide and mercaptans, etc., normally at ordinary temperature to about 180 deg.C (preferably about 100-160 deg.C) temperature to remove the sulfur compounds from the liquid of the component (B).

Data supplied from the esp@cenet database - 12

BEST AVAILABLE COPY

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平2-132186

⑮ Int. Cl.⁵

C 10 G 25/00
C 07 B 63/02
C 10 G 29/16

識別記号

C

庁内整理番号

7106-4H
7457-4H
7106-4H

⑬ 公開 平成2年(1990)5月21日

審査請求 未請求 請求項の数 6 (全3頁)

⑭ 発明の名称 液相脱硫方法

⑯ 特 願 昭63-283831

⑰ 出 願 昭63(1988)11月11日

⑱ 発 明 者 高 瀬 経 義 東京都港区赤坂1丁目9番13号 東洋シーシーアイ株式
社内
⑱ 発 明 者 原 田 興 一 山口県下関市彦島迫町7丁目2番10号 東洋シーシーアイ
株式会社内
⑱ 発 明 者 川 原 和 則 山口県下関市彦島迫町7丁目2番10号 東洋シーシーアイ
株式会社内
⑱ 発 明 者 其 上 一 彦 山口県下関市彦島迫町7丁目2番10号 東洋シーシーアイ
株式会社内
⑲ 出 願 人 東洋シーシーアイ株式 東京都港区赤坂1丁目9番13号
会社
⑳ 代 理 人 弁理士 若 林 忠

明 細 書

1. 発明の名称

液相脱硫方法

2. 特許請求の範囲

1. 酸化銅を担持した活性炭からなる脱硫剤と、硫黄化合物を含有する液体とを接触させることにより、該液体から該硫黄化合物を除去する液相脱硫方法。
2. 硫黄化合物が、二酸化硫黄、硫化水素、二硫化炭素、硫化ジメチル、硫化カルボニル、メルカプタン類その他の有機硫黄化合物よりなる群から選ばれた少なくとも一種であることを特徴とする請求項1に記載の液相脱硫方法。
3. 液体が炭化水素油であることを特徴とする請求項1または2に記載の液相脱硫方法。
4. 脱硫剤と液体を常温ないし約180℃の温度範囲で接触させることを特徴とする請求項1、2または3に記載の液相脱硫方法。
5. 脱硫剤と液体を約100℃ないし約160℃の温度範囲で接触させることを特徴とする請求項

1、2または3に記載の液相脱硫方法。

6. 酸化銅が脱硫剤中に約8重量%以上含まれていることを特徴とする請求項1から5までのいずれか1項に記載の液相脱硫方法。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は硫黄化合物特に硫化ジメチル、二硫化炭素、硫化カルボニル等の硫黄物質及びメルカプタン等の有機化合物などの硫黄化合物を含む液体からの液相脱硫方法に関する。硫黄化合物を含む液体としては、ナフサ等の炭化水素油類などが主として適用される。

[従来の技術]

ナフサ等の原料に含まれる硫化水素、メルカプタン類、硫化ジメチル、硫化カルボニル、二硫化炭素等の硫黄化合物の除去方法としては、活性炭、モレキュラーシーブス等の吸着剤を使用する吸着法、エタノールアミン、グリコールアミン、ベンジン、ピペリジン等を用いて吸収する溶剤吸収法、酸化鉄、酸化亜鉛、酸化銅などの多くの金